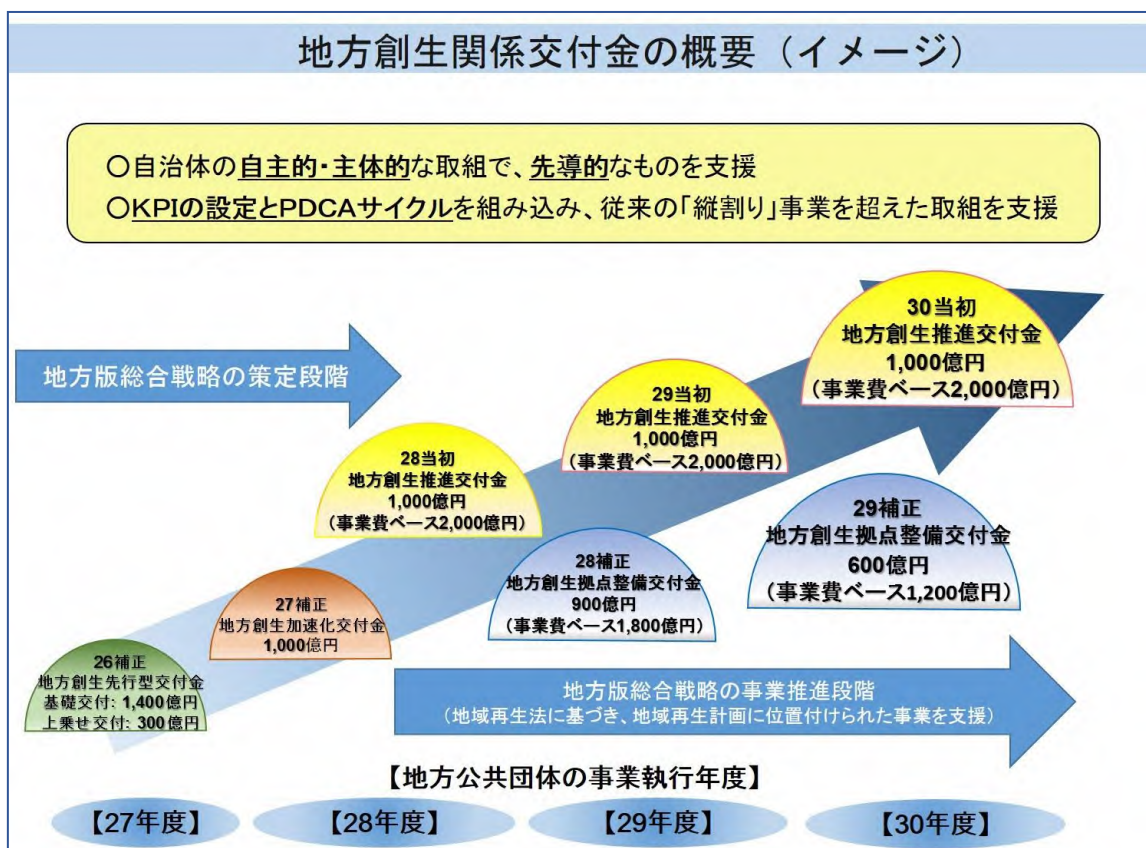


地方創生関係交付金事業等の進捗状況（平成 29 年度実施事業）

1 地方創生関係交付金の概要

地方版総合戦略の策定および実施に当たり、国が、地方公共団体が適切な効果検証の仕組みを伴いつつ自主性・主体性を最大限に発揮できるようにするための財政的支援として、次のような交付金を創設している。



2 交付金事業の検証について

交付金事業には、事業の推進状況を測るために重要業績評価指標（KPI）を設定することとなっている。その上で、重要業績評価指標（KPI）等を用いて事業の進捗・達成状況等により評価・検証を行うとともに、外部有識者等を含む検証機関による検証を行うことが求められている。

3 平成 29 年度（2017 年度）対象事業一覧

①地方創生推進交付金

（単位 千円）

事業名		H29 事業費	交付金額	頁
三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業※ ※神奈川県および三浦半島 4 市 1 町による連携事業		—	—	4
うち、横須賀市実施事業				
1	ステップアップインバウンド事業	37,365	18,682	6
2	住むまち横須賀魅力体験・発信事業	26,592	13,295	8
3	マリンスポーツによるまちづくり事業	10,000	5,000	10

②地方創生拠点整備交付金

（単位 千円）

事業名		H29 事業費	交付金額	頁
4	うみかぜ公園スケートボードパークリニューアル事業	50,050	24,895	11

③地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）※

（単位 千円）

事業名		H29 事業費	(H29 寄附額)	頁
5	ドローン産業集積推進事業	2,908	(800)	12

※国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対し企業が寄付を行った場合に、寄附額の 3 割を当該企業の法人関係税から税額控除する制度。従来からの損金算入による軽減効果（寄附額の約 3 割）と合わせて、寄附額の約 6 割が軽減される。

事業別調書

事業名	三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業	担当部課	—
-----	---------------------	------	---

- * 神奈川県および三浦半島4市1町による連携事業（事業計画等の取りまとめは神奈川県）
- * うち、今回の議論対象である本市実施事業は、以下「具体的な取り組み」欄に下線で示した3事業
- * 本市実施事業の具体的な内容は、p. 6～p. 10「事業別調書」に掲載

事業概要	三浦半島は、東京、横浜などの大都市の通勤圏にありながら、海あり、山あり、歴史ありという他の地域にはない優位性を持っている。こうした優位性を活かし、三浦半島の優位性を半島全体のイメージとして、プロモーションし、かつ、県・市町の様々な施策を訴求対象別の施策としてまとめあげ、事業効果を最大化する「司令塔」として三浦半島地域連携DMOを設立することで、半島全域の観光プロモーションやマーケティングと戦略推進などによる交流人口の増加を進める。 また、三浦半島での充実したライフスタイル等の情報について拠点を整備して発信することにより、移住促進による人口減少の歯止めを図る。 これらの取り組みを支えるものとして、基盤づくりや地域資源の磨き上げ及び地域課題への対応を市町が行うことにより、民間主導による地域経済の循環を生み出す先導的なモデルづくりを進めるものである。
具体的な取り組み (2017年度)	I 三浦半島地域連携DMOを司令塔としたプロモーションの推進 1 DMOによる事業全体の下支え ア 三浦半島DMOプロモーション事業【県】 イ 三浦半島DMO拠点整備推進事業【県】 II 観光による交流人口の増加 1 観光客(全般)への訴求 ア 海の駅‘うらり’セールスプロモーション事業【三浦市】 イ 回遊性向上のための環境整備事業【三浦市】 ウ 観光客訴求イベント及び町活性化のための調査事業【葉山町】 2 観光客(海志向)への訴求 ア 海の魅力向上に向けたイベント【鎌倉市】 イ ファミリー層に訴求するイベント【逗子市】 3 観光客(外国人)への訴求 ア <u>ステップアップインバウンド事業【横須賀市】 (p.6)</u> 4 観光客(健康志向)への訴求 ア ヘルシータウン事業【鎌倉市】 III 移住促進による人口減少への歯止め 1 半島外移住(移住志向)への訴求 ア 半島ライフ発信事業【県】 イ <u>住むまち横須賀魅力体験・発信事業【横須賀市】 (p.8)</u> ウ 鎌倉ライフプロデュース事業【鎌倉市】 エ 三浦半島ずしトライアルステイ・魅力体験イベント【逗子市】 オ トライアルステイ・リノベーションまちづくり事業【三浦市】 カ テレワークのモデル事業【逗子市】 キ <u>マリンスポーツによるまちづくり事業【横須賀市】 (p.10)</u> IV 基盤づくりや地域課題への対応 1 基盤整備 ア 浜の活力推進事業【三浦市】 2 国外企業への訴求 ア 三浦漁港グローバルブランディング戦略実践事業【三浦市】 3 域内住民(オリンピック)への訴求 ア 2020東京五輪に向けたヨット乗船体験【逗子市】 イ 2020東京五輪に向けたヨット乗船事業【葉山町】 4 域内住民(健康志向・高齢者)への訴求 ア (仮称)未病改善事業【三浦市】

重要業績評価指標（KPI）の状況・事業効果

KPI①	三浦半島4市1町における入込観光客数	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
		目標	—	3,770万人	3,850万人	3,930万人	4,000万人
		実績	3,690万人	3,723万人	3,661万人		
		実績（本市）	785万人	825万人	821万人		
		本市の状況	・本市の2017年入込観光客数は対前年比で微減となったものの、基準年である2014年と比べると、大型遊具やキャンプ施設の設置などのリニューアルを行ったソレイユの丘への来場者が増加し、36万人(785万人→821万人)の増となっている。				
KPI②	三浦半島4市1町における社会増減	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
		目標	—	▲1,180人	▲780人	▲380人	0人
		実績	▲1,582人	▲768人	▲566人		
		実績（本市）	▲1,785人	▲1,266人	▲1,112人		
		本市の状況	・基準年である2015年は、本市(▲1,785人)および三浦市(▲185)のみが社会減の状況であった。 ・本市においては、2017年についても依然として社会減が続いている状況だが、基準年である2015年と比べると、減少数が673人抑制(▲1,785人→▲1,112人)されており、結果として半島全体の目標達成に寄与している。 ※本市における2017年と2015年の増減内訳 転入 458人増 (2015:12,815人→2017:13,273人) 転出 215人減 (2015:14,600人→2017:14,385人)				
KPI③	各種イベント参加者数	年度	申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
		目標	—	50,000人	53,000人	56,000人	60,000人
		実績	—	96,366人	124,945人		
		実績（本市）	—	61人	33,107人		
		本市の状況	・本指標における本市の対象事業は以下の2項目 (1) ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会 来場者数 約33,000人 (2) 住むまち横須賀魅力体験モニターツアー 参加者数107人 ・特に、ウインドサーフィンワールドカップについては都心からのアクセスのよさなども影響して多くの来場者があり、目標達成に寄与している。				

事業別調書 1

事業名	ステップアップインバウンド事業 (三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業)	担当部課	文化スポーツ観光部観光課			
総合戦略 基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する				中柱	①

	東京2020オリンピック・パラリンピック開催時の訪日外国人観光客を獲得するため、米軍基地を有するという三浦半島の特性を活かし、米軍基地関係者を初めとする外国人を対象に横須賀市とその他の市町村を観光ルートバス(サークルバス)でつなぎ、新たな地域資源の発掘とニーズ把握の実証実験、観光動向調査を実施し、事業者などに向けて公表する。調査結果を基に、インバウンド受け入れ環境向上を目指すプロジェクトを進める。					
事業費(円)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	総事業費
計画額(a)	-	40,673,000	16,621,000	16,621,000		73,915,000
実績額(b)	-	37,364,727				37,364,727
執行率(b/a)		91.9%	0.0%	0.0%		50.6%
事業実績 (2017年度)	1 サークルバスの実施					
	○第3回サークルバス実施					
	2017年10月17日(火) 雨 事前予約41名 参加人数13名					
	21日(土) 暴風雨 事前予約64名 参加人数30名					
	【実施概要】					
	10時から30分間隔で運行/バス乗り降り自由/添乗員がバス車内を英語で案内/ 英語表記のMAP配布/英語対応可能なお店にフラッグ掲出					
	【コース】					
	よこすかポートマーケット/メルキュール横須賀→横須賀美術館→観音崎自然博物館/ 県立観音崎自然公園/観音崎灯台/たたら浜→浦賀エリア(東西叶神社/浦賀の渡し船)→ くりはま花の国→久里浜商店街					
	○第4回サークルバス実施					
	2018年3月3日(土) 晴 事前予約89名 参加人数46名+8組(当日申込)					
	4日(日) 晴 事前予約79名 参加人数62名+12組(当日申込)					
	【実施概要】					
	メルキュールホテル横須賀からソレイユの丘までシャトルバス運行 午前2便 午後3便/ 添乗員がバス車内を英語で案内/車で来た人はソレイユの丘駐車場無料/ 無料・有料のオプションツアーを設定/一部のモニターにヒアリング実施					
	【コース】					
①「横須賀～ソレイユの丘」シャトルバス						
②西海岸人気エリアミニツアー(西海岸コース/お買いものコース)						
③体験メニュー(大楠山ピクニックと運慶/シーカヤック体験/流し雛と運慶/いちご狩り体験)						
○事業者向けセミナーの実施						
2018年2月14日(水) 参加者 14社 22人						
(募集対象 横須賀市観光協会会員、横須賀市商店街)						
2 デジタルサイネージの設置						
設置場所:JR横須賀駅構内						
設置日時:2018年3月22日(木)						
3 観光マーケティング調査の実施						
○観光客満足度調査						
主要観光スポットの来訪者に対して、来訪目的・滞在時間・消費額など観光行動の実態を把握						
○開国の歴史を活用した観光振興調査						
開国の歴史に関する地域資源の実態調査(認知度・利用度・満足度・改善点など)を実施し、 拠点整備や周遊ルートの設定における課題を把握						
○宿泊施設立地可能性調査						
市内宿泊施設利用者、宿泊施設事業者に対するアンケート調査等を実施し、誘致の可能性を分析						

重要業績評価指標（KPI）の状況・事業効果							
	項目		申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
KPI①	三浦半島4市1町における入込観光客数	目標	—	3,770万人	3,850万人	3,930万人	4,000万人
		実績	3,690万人	3,723万人	3,661万人		
		実績（本市）	785万人	825万人	821万人		
KPI②	三浦半島4市1町における社会増減	目標	—	▲1,180人	▲780人	▲380人	0人
		実績	▲1,582人	▲768人	▲566人		
		実績（本市）	▲1,785人	▲1,266人	▲1,112人		
KPI③	各種イベント参加者数	目標	—	50,000人	53,000人	56,000人	60,000人
		実績	—	96,366人	124,945人		
		実績（本市）	—	61人	33,107人		
KPIに対する効果	2016年度に実施したマーケティング調査の結果を踏まえ、本市観光の重要な玄関口であるJR横須賀駅に観光案内用のデジタルサイネージを設置した。外国人観光客を含めた観光客の利便性を向上させることで、観光客の増加(再訪)を図っている。						
基本目標に対する効果	サークルバスの実施やマーケティング調査の結果を通じて、SNSを中心とした外国人の情報収集の方法や、横須賀における興味・嗜好、飲食店等での最低限の英語表記の必要性といった受け入れ側の課題など、インバウンドの受入環境整備に向けたデータを得ることができた。 これまでに実施した「来てもらうためのニーズ把握」に関するデータを生かし、今後は外国人が「実際に訪れた際の不安解消」などに向けた調査に取り組む。						
今後の方向性	2018年度の実施状況			今後の事業の進め方			
	①外国人向け調査の実施 過去2年間のサークルバスの調査結果を踏まえ、外国人の興味・嗜好が高い「自然」や「体験」などをメインとしたモデルコースを例示し、外国人モニターに周遊してもらう。周遊に当たっては公共交通機関を利用することに加え、通訳・ガイドが同行し、案内看板の表記内容や交通機関利用時の不安点といった移動環境に関する調査を中心として、外国人目線での地域資源の魅力なども併せて聞き取り調査を行い、現場での新鮮な意見を収集する。 ②受入事業者への調査の実施 モデルコース上の事業者を中心に、外国人の対応で困った点などについて聞き取り調査を行うなど、外国人の受け入れ環境整備に向けた改善策などの検討に取り組む。			三浦半島全体をインバウンドに強い地域にすることを目指し、公共交通機関を活用した観光調査の実施やさらなるSNSの情報発信の向上、受入事業者のインバウンドに対する意識のハードルを下げるための研修などを実施し、よりよい調査結果を得るために必要に応じて内容等を修正しながら、外国人観光客が来るための動機・誘因づくりに取り組んでいく。			
政策評価委員会での主な意見	(今後の事業展開についてのご意見・ご助言・ご感想など) ・ ・ ・ ・ ・						

事業別調書 2

事業名	住むまち横須賀魅力体験・発信事業 (三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業)	担当部課	(1)政策推進部プロジェクト推進課 (2)都市部まちなみ景観課			
総合戦略 基本目標	2 定住を促す魅力的な都市環境をつくる		中柱	-	小柱	-

事業内容	・商工会議所、京浜急行、不動産業者等の民間事業者と協力し「住むまち」横須賀の魅力が体験できるツアーなどを実施。併せて横須賀の「住む」魅力を積極的にプロモーションし、市外へ情報を発信する。 ・また、住宅ストックの循環促進に向けた住まい活用フェアの開催や、空き家の利活用促進のための支援を行う。					
事業費（円）	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	総事業費
計画額（a）	-	33,541,000	19,101,000	19,101,000		71,743,000
実績額（b）	-	26,592,329				26,592,329
執行率（b/a）		79.3%	0.0%	0.0%		37.1%

事業実績 (2017年度)	(1)「住むまち」横須賀のプロモーション ・市外在住者を主な対象とした、横須賀の魅力体感モニターツアーの実施 5回 ・京急線中吊り広告や横浜駅での集中広告など、交通機関を活用した情報発信 9回 ・県内住宅展示場や品川駅でのキャンペーンを実施 30回 ・不動産サイトへのバナー広告や、SNSを活用した広告の掲出 ・FMラジオと連携したツアーの開催や、特別番組の制作放送 各2回 ・コミュニティー紙への広告掲出 5回 ・メディアを対象とした市内視察ツアーを実施 4回 ・メディアと連携したイベントの開催 3回 (2)住宅ストックの循環促進 【住まい活用促進フェアの開催】 ・出張相談会(住まい活用促進フェア) 開催回数 3回(来場者数68人) ・出張相談会に寄せられた相談件数 13件 【学生シェア居住助成事業】 ・制度を利用して居住開始した物件数 1軒 ・シェア居住を開始した学生の数 2人 ・入居時に掛かる初期費用の助成 150,000円 【社宅転用リフォーム助成】 ・制度を利用し、リフォームされた物件数 1軒 ・リフォーム物件に居住開始した従業員数 3名 ・リフォーム助成 150,000円					
------------------	--	--	--	--	--	--

重要業績評価指標（KPI）の状況・事業効果

	項目		申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
KPI①	三浦半島4市1町における入込観光客数	目標	—	3,770万人	3,850万人	3,930万人	4,000万人
		実績	3,690万人	3,723万人	3,661万人		
		実績（本市）	785万人	825万人	821万人		
KPI②	三浦半島4市1町における社会増減	目標	—	▲1,180人	▲780人	▲380人	0人
		実績	▲1,582人	▲768人	▲566人		
		実績（本市）	▲1,785人	▲1,266人	▲1,112人		
KPI③	各種イベント参加者数	目標	—	50,000人	53,000人	56,000人	60,000人
		実績	—	96,366人	124,945人		
		実績（本市）	—	61人	33,107人		
KPIに対する効果	・依然として社会減が続いている状況だが、基準年である2015年と比べると、減少数は673人抑制(▲1,785人→▲1,112人)されている。[KPI②] ※2017年と2015年の増減内訳 転入;458人増 転出;215人減 ・横須賀の魅力体感モニターツアー参加者 107人 [KPI③]						

基本目標に対する効果	・本市に定住可能性の見込まれる市外在住の首都圏への通勤者を対象として、市民が感じる都市魅力を、様々な媒体を活用し発信することが出来た。また、横須賀の魅力体感モニターツアーの参加者アンケートでは、全体の93%が、参加前と比べ、本市に対するイメージがよくなったと回答しており、本市を「住むまち」の選択肢として意識化するという点において一定の効果があった。 ・住宅ストックの循環促進においては、助成制度の利用をきっかけとした5名の定住、また、「住まい活用促進フェア」を通じて、空き家所有者などに対して中古住宅の流動化に向けた働きかけを行う機会を創出した。		
今後の方向性	(1) 住むまち横須賀プロモーション	2018年度の実施状況	今後の事業の進め方
	(2) 住宅ストック循環促進	・市民が感じている本市の魅力の発信については、これまでの取り組み実績の分析から、交通広告やFMラジオでの発信、またコミュニティ紙等、費用対効果の高いプロモーションを継続する。 ・また、本市の特性やポテンシャルを生かした新たな取り組みに挑戦することで、新しい魅力を創出し、市民の誇りにつなげる。	・市民が感じる都市魅力の発信については、横須賀の魅力体感モニターツアーを実施・発信する。 ・また、音楽・スポーツ・エンタテインメント都市に向けて、特に音楽を活用したプロジェクトを実施することで、本市の新しい都市イメージ醸成に寄与する。
		・住まい活用促進フェアについては、会場を町内会館等から市役所に変更するとともに、セミナーと同時開催するイベント形態を相談会中心の形態に改め、空き家所有者が相談しやすい環境で開催することにより、相談者数の増加を図る。 ・学生シェア居住助成事業については、近隣の学校とも連携し、説明会の開催、チラシやホームページ等での周知を行ってきたが、結果として学生からの問い合わせがほぼなかった。今後、申請件数が向上する可能性は低いことから、平成29年度をもって事業を終了した。 ・社宅転用助成事業はこれまでの実績を踏まえ予算規模を縮小し継続していく。	
政策評価委員会での主な意見	(今後の事業展開についてのご意見・ご助言・ご感想など) ・ ・ ・ ・ ・		

事業別調書 3

事業名	マリンスポーツによるまちづくり事業 (三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業)				担当部課	政策推進部政策推進課 (文化スポーツ観光部企画課)			
総合戦略 基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する					中柱	(3)	小柱	②
事業内容	ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会実行委員会への負担金								
事業費(円)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	総事業費			
計画額(a)	10,000,000	10,000,000	15,000,000	15,000,000		50,000,000			
実績額(b)	10,000,000	10,000,000				20,000,000			
執行率(b/a)	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%		40.0%			
事業実績 (2017年度)	国内で24年ぶりとなるウインドサーフィンワールドカップを開催し、約33,000人が来場した。 [大会日程 2017年5月11日～16日] また、次年度も大会を継続して実施するため、国際競技団体と調整を行うなど、準備を行った。								
重要業績評価指標 (KPI) の状況・事業効果									
	項目		申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)		
KPI①	三浦半島4市 1町における 入込観光客数	目標	—	3,770万人	3,850万人	3,930万人	4,000万人		
		実績	3,690万人	3,723万人	3,661万人				
		実績(本市)	785万人	825万人	821万人				
KPI②	三浦半島4市 1町における 社会増減	目標	—	▲1,180人	▲780人	▲380人	0人		
		実績	▲1,582人	▲768人	▲566人				
		実績(本市)	▲1,785人	▲1,266人	▲1,112人				
KPI③	各種イベント 参加者数	目標	—	50,000人	53,000人	56,000人	60,000人		
		実績	—	96,366人	124,945人				
		実績(本市)	—	61人	33,107人				
KPIに 対する効果	国内で24年ぶりの開催であることで興味を得られたこと、都心からアクセスしやすい場所であることなどが 要因となり、目標30,000人を上回る約33,000人が来場した。								
基本目標に 対する効果	ウインドサーフィンW杯をきっかけに地元での地域活性化の取り組みが推進された。 ・横須賀・海・風をイメージしたご当地商品「横須賀ウインドブルー」(カクテル・洋菓子等)の開発 ・こどもたちを中心にマリンスポーツに親しんでもらえる受け皿となるNPO法人の設立 ・ウインドサーファーが利用しやすい環境の整備 ・運営されていなかったホテルがリゾートホテルとしてリニューアルオープン など								
今後の方向性	2018年度の実施状況				今後の事業の進め方				
	2018年5月10日～15日に開催 前回大会の課題であった「分かりやすい見せ方」 「競技を阻害する海藻の対策」を行うとともに、音楽ライブなどエンターテインメント性を高め、より楽しめる大会とし、約49,000人の方が来場した。				大会会場を横須賀市に留まらず、三浦市側まで範囲を拡大し、「横須賀・三浦大会」とすることで、さらに内容を充実させ、大会の拡大を図っていく。				
政策評価委員会 での主な意見	(今後の事業展開についてのご意見・ご助言・ご感想など) ・ ・ ・ ・ ・								

事業別調書 4

事業名	うみかぜ公園スケートボードパークリニューアル事業	担当部課	港湾部港湾建設課			
総合戦略基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する				中柱	(3)
					小柱	②

事業目的	うみかぜ公園スケートボードパークの全面リニューアルを実施することにより、「スポーツのまちづくり」の一翼を担う施設としてその魅力を高め、横須賀市への集客促進、市内消費の拡大を図る。					
事業内容	うみかぜ公園スケートボードパークの全面リニューアルを実施する。					
事業費（円）	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	総事業費
計画額（a）	—	50,393,000	—	—	—	50,393,000
実績額（b）	—	50,050,440	—	—	—	50,050,440
執行率（b/a）	—	99.3%	—	—	—	99.3%
事業実績（2017年度）	セクション（ジャンプ台等の構造物）のリニューアル セクション 設置8基 改修1基 パーク床面リニューアル 全天候型舗装 3,467㎡ アスファルト舗装改修 3,467㎡					

重要業績評価指標（KPI）の状況・事業効果

	項目		申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)
KPI①	観光客消費額	目標	—	—	434億円	458億円	482億円	506億円
		実績	386億円	588億円	390億円			
KPI②	うみかぜ公園 駐車場使用料 収入	目標	—	—	33,348千円	33,901千円	34,454千円	35,007千円
		実績	32,242千円	35,360千円	31,535千円			
KPI③	うみかぜ公園 来園者数	目標	—	—	224,143人	227,618人	231,093人	234,568人
		実績	217,193人	214,205人	195,859人			
KPIの分析	2017年度は、工事実施時期の約3カ月にわたりスケートボードパークの利用を停止していたため、KPI②、③は目標値に対し未達成となった。 なお、リニューアルオープン後の2018年3月および4月の公園利用者は前年同月比で約30%増加している。							

基本目標に対する効果	スケートボードエリア等の全面リニューアルを実施したことで、スケートボードの愛好家だけでなく、スケートボードを中心とした複合的なイベントの開催等を通じて施設利用者が増加しており、集客促進に寄与している。
------------	--

今後の方向性	2018年度の実施状況	今後の事業の進め方
	※2018年3月からリニューアルオープン 直近2カ月（2018年3月および4月）のうみかぜ公園利用者は対前年同月比で30%増加している。	スケートボードパークを会場とした大会誘致等により、競技人口及びパーク利用者の増加を図っていく。

政策評価委員会での主な意見	（今後の事業展開についてのご意見・ご助言・ご感想など） ・ ・ ・ ・
---------------	---

事業別調書 5

事業名	ドローン産業集積推進事業				担当部課	経済部企業誘致・工業振興課			
総合戦略基本目標	1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する					中柱	(1)	小柱	①
事業目的	市内の企業等に対し、無償で飛行実験フィールドを提供し、ドローン関連技術や産業の研究・開発を促し、事業化を支援する。								
事業内容	・ドローンフィールドの提供(長坂5丁目地内) ・企業等に対する研修の実施(座学・フィールドでの操作研修) ・モニターツアーの実施 事業化が期待できる企業等を中心としたドローンフィールド体験ツアーを開催 ・ドローン関連展示会等出展補助金の交付(補助率2/3、限度額30万円)								
事業費(円)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)	H32(2020)	総事業費			
計画額(a)	5,562,000	7,675,000	6,627,000	6,627,000		26,491,000			
実績額(b)	3,662,620	2,907,509				6,570,129			
執行率(b/a)	65.9%	37.9%	0.0%	0.0%		24.8%			
事業実績(2017年度)	【ドローンフィールド使用登録事業者数】 24社 【ドローンフィールド使用許可日数】 235日 【ドローンフィールドモニターツアーの実施】 2017年12月11日 参加者8名(5社) 【ドローン基礎研修の実施】 2018年3月25日 参加者10名(6社) 【ドローンフィールド使用登録事業者意見交換会の実施】 2017年9月4日 参加者20名 / 2018年3月1日 参加者23名								
重要業績評価指標(KPI)の状況・事業効果									
	項目		申請時	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)		
KPI①	フィールド使用企業数	目標	—	70社	80社	90社	100社		
		実績	0社	26社	235社				
KPI②	ドローンを活用し事業展開する企業の創業・新規進出数(移転は除く)	目標	—	1社	2社	3社	5社		
		実績	0社	1社	0社				
KPI③	—	目標							
		実績							
KPIの分析	・KPI① フィールド使用企業数は、様々な機会でのフィールドのPRにより、登録企業数の増に繋がり、KPIを達成した。 ・KPI② ドローンを活用し事業展開する企業の創業・新規進出数は、興味を持っている企業はあるものの、進出するためのコスト等様々な課題を解決するための時間も必要となることから、実績につながらなかったと見ている。								
基本目標に対する効果	ドローンフィールド登録事業者が、ドローンを使用した新たなサービスの展開を開始してきている。								
今後の方向性	2018年度の実施状況				今後の事業の進め方				
	2018年6月末時点登録事業者数 27社				ドローンを使用した新たなサービスの展開が、地域経済の活性化や雇用の創出につながるように事業を継続していく。				
政策評価委員会での主な意見	(今後の事業展開についてのご意見・ご助言・ご感想など) ・ ・ ・ ・								